

2030年のあるべき姿(ビジョン)



弊財団が目指す社会は、「観光を通して県民が幸せを感じることができる社会」であるが、令和5年度の「沖縄観光に関する県民意識の調査」(沖縄県実施)において「観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられるか」という問いでは、「どちらともいえない」が31.5%、否定的な意見が12.6%と、県民全体が、観光を通して幸せを感じていると
は言い難い現状であった。今後2年間で特に注力する活動・取組に掲げる、「デジタル観光マーケティング」や「エシカルトラベルオキナワの推進」等に取り組むことで、広域連携DMOとして「地域の稼ぐ力」の向上を支援し、観光資源の磨き上げと受入環境整備の質の向上を図るとともに、地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、量と質のバランスが取れた持続可能な観光地マネジメントに取り組むことで、「観光を通して県民が幸せを感じることができる社会」を実現する。

認証期間において特に注力する活動・取組



詳しくはコチラ

取組概要

経済	【デジタル観光マーケティング】 人流把握や地域課題解決を図る ために開発した「おきなわ観光地域 カルテ」の利活用を促進する。	沖縄県内41市町村別の人流・イベントデータを可視化 する「おきなわ観光地域カルテ」を活用し、地域と連携し た環境配慮型観光や持続可能なマーケティングにつな げることで、「地域の稼ぐ力」を引き出す。	
社会	エシカルトラベル オキナワの推進	沖縄の自然環境・伝統・産業を尊重し、旅行者と県民の 相互満足度向上を目指す「エシカルトラベル」を推進し、 SDGsの理念に沿った観光情報発信と事業者の機会創 出、観光客誘客に繋げる。	
環境	ブセナ海中公園 周辺における 海洋資源を保全する取組	ブセナ海中公園周辺のサンゴ礁保全・再生に取り組み、子どもたちの環境意識 向上を図る。毎年海の日にタマンの稚魚放流イベントを実施し、観光客や県民 に海洋保全の重要性を伝える。	
経済	【ステークホルダーマネジメント】 賛助会員や関連団体等の パートナーシップ・ 連携強化に取り組む。	沖縄観光関連団体や約640社の多様な賛助会員と情報共有・意見交換を継続 し、パートナーシップを強化。SDGsやサステナブルツーリズムの取組を情報発 信し、観光・コンベンション振興を推進する。	
社会	旧海軍司令部壕において、 当時の戦争遺跡を保存・活用し、 世界の恒久平和を発信する。	戦争の悲惨さを伝え恒久平和を祈念する戦跡公園である旧海軍司令部壕の 保存と、併設する戦没者慰霊塔や資料館を活用し、「平和で豊かなおきなわ」づ くりに取り組む。	